

第1分科会協議内容中間報告

分科会テーマ

住みたいまち与板

福祉の喜びが実感できる。
漏れなく福祉の陽があたる、福祉の愛情が届く、やさしい地域。

実現に向けて

分科会協議経過(平成21年度開催回数 5回)

「みんなが住みたいまち」にするには何が必要かを各委員から意見を聴取する。

- ・第2、3回分科会で、人づくりとボランティア活動の必要性が共通課題としてあがった。
- ・第4回分科会で、ボランティアと福祉の関わりについて検討していくことで意見をまとめる。
- ・第5回分科会で、福祉とボランティア活動の現状を確認するため、実際にボランティア活動に関わっている社会福祉協議会などから話を聞く機会を設けることとなった。
- ・4/28開催の学習会で、高齢者福祉ボランティアを協議項目として進めることに決定する。

分科会での主な意見

- ・ボランティア団体を立ち上げられないか。今ある組織をふくらませてはどうか。
- ・地域住民で組織化し、与板地域全域をカバーするネットワークを整備できないか。
- ・行政の窓口、受入体制は整備されているが、その制度を知る、サービスを受けるまでの案内(ガイド)の仕組みができないか。
- ・与板独自の事業ができないか。
- ・次世代を担う人を育む必要があるのではないか。

【今後の協議の進め方】

平成22年度第1回分科会で社会福祉協議会やボランティア活動団体等と情報交換会を行い、現状と課題の整理を行い、対応策の検討を進めていくこととする。

課題の整理

【解決するために何が必要か具体的に協議】

- ・なぜ取組まなければならないのか？
- ・何を行うか

何を取り組みたいのかを具体的に明確にする

【何の分野で、何をどのようにしたいのか】

- ・協議項目、ポイントを絞る 取組み内容、実施事業等の決定

取り組んでいくには、何を行えばよいか
・どんなことができるか

地域委員会として何ができるか？
・どのように関わっていくか(いけるか)

- ・住民活動として行っていける内容
- ・行政が支援できる内容

地域住民や市へ提案

第2分科会協議内容中間報告

分科会テーマ

誇れるまち与板

- ・外から人が来てくれるまちに。
- ・リピーターになってもらえるように。
- ・河川公園を活用してまちの活性化。

実現に向けて

分科会協議経過(平成21年度開催回数 6回)

与板が他の町に誇れるものは何があるのか。誇れるということをごどこまで考えるのか。「みんなが誇れるまち」にするには何が必要かを各委員から意見を聴取する。

- ・第2、3回分科会で、地域の誇れるものとして毎年大勢の人が訪れる河川公園と廃線敷散策路があげられた。
- ・9月初旬に分科会全員で河川公園と散策路を実際に歩いて見てもらった。
- ・第4回分科会で、現場視察をふまえて支所担当課と意見交換を行い、市の河川公園改修について情報提供を受ける。
- ・第5、6回分科会で、河川公園改良整備計画の説明を受け、河川公園と散策路等の回遊性をもたせる必要性、駐車場、散策マップ、まちの駅の存続についてが課題としてあがった。

分科会での主な意見

- ・遊具ゾーンと別院橋下流のところに駐車場があれば人が来る。河川公園に人の流れが出来ると思う。
- ・まちの回遊性を考慮して、まち交事業の散策路を含めてどのように活かしていくか。それを実現するにはどうすればよいかを考えていく必要があるのでは。
- ・まちの回遊性を考える中で、情報発信の基地が必要となる。まちの駅は存続してほしい。
- ・いろいろなパンフレットがあるが、河川公園と散策路を活かしていくために散策マップを作ってはどうか。
- ・菖蒲が植えられた経緯を住民に知ってもらうことで、住民の会の立ち上げにもつながるのでは。

【今後の協議の進め方】

- ・河川公園にこれからもたくさんの人から訪れてもらうために。
- ・駐車場については、新規整備だけでなく既存の駐車場を含めてどのように活用できるか。
- ・情報発信の基地としてのまちの駅の活用方法
- ・どのような散策マップを作っていくのか。行政と住民協働でできることはないか。

平成22年度第1回分科会で支所担当課と情報交換会を行い、現状と課題の整理を行い、対応策の検討を進めていくこととする。

課題の整理

- 【解決するために何が必要か具体的に協議】
- ・なぜ取組まなければならないのか？
 - ・何を行うか

河川公園と散策路の回遊性を考えた中で何が必要か。
地域として住民が取組んでいけるものはなにか？

何を取り組みたいのかを具体的に明確にする

- 【何の分野で、何をどのようにしたいのか】
- ・協議項目、ポイントを絞る 取り組み内容、実施事業等の決定

取り組んでいくには、何を行えばよいか
・どんなことができるか

地域委員会として何が出来るか？
・どのように関わっていくか(いけるか)

- 必要に応じて現状把握 団体との意見交換
- ・住民活動として行っている内容
 - ・行政が支援できる内容

地域住民や市へ提案